

編集後記

『郵政博物館 研究紀要』第9号をお届けします。巻頭論文1本、論文3本、研究ノート1本、論点1本、エッセイ1本、コラム（「歴史の窓」）1本、トピックス2本の構成です。

郵政博物館は、いわゆる郵政三事業（郵便・貯金・簡易保険）以外に、電信電話、放送、電気、鉄道、交通、海運に関連する資料も多く収蔵しております。それは、郵政省の前身である通信省が、かつてこれらの事業を管轄していたことに関係しており、通信省の関わっていた分野がいかに広範に及んでいたのかが窺えます。杉浦先生の巻頭論文では、およそネットワークに関わる事業を所管、あるいは仲立ちしていた通信省自体を一つのハイパーメディアと評し、同省の本質について考察すべきと問題提起されています。

本年度も、巻島氏、小原氏、伊藤氏、後藤氏より水準の高いご論考を寄稿していただきました。また、藤本氏からは、ご自身が携わった郵便事業について、確率・統計的手法を用い、経済・法制・歴史の各分野を包括する「郵便の基礎理論」の構築に向けた試論として「論点」をご寄稿いただきました。

「郵政歴史文化研究会」が発足し、9年が経過しました。これまで研究会メンバーの先生方から、多くの優れたご論考を寄稿いただき、学界からも一定の評価を得たと自負しておりますが、研究者以外の読者の方に向けた発信もすべきではというご意見をいただいております。本年度は、山本先生より明治時代に入り村に時計が普及してきたことによる時間の認識の変化についてエッセイを寄稿いただいたほか、コラム「歴史の窓」のコーナーを新設し、原先生より江戸時代の旅と寺社参詣との関わりについて、先端のご研究内容をご紹介いただきました。いかがでしたでしょうか。ご意見ご感想を賜れば幸甚です。

昨年郵政博物館では、郵政博物館誕生115年を記念して、春に「一通信のあゆみ—悠久の大通信」展、秋に「錦絵—東京浪漫」展を開催いたしました。この2つの企画展の展示には、「郵政歴史文化研究会」をはじめ多くの方々の調査・研究成果が多く反映されております。ここに記して感謝申し上げます。

（研究会事務局 田原）

[編集委員]

石井 寛治（東京大学名誉教授）
新井 勝紘（元専修大学文学部教授）
杉浦 勢之（青山学院大学総合文化政策学部教授）
杉山 伸也（慶應義塾大学名誉教授）
藤井 信幸（東洋大学経済学部教授）
山本 光正（交通史学会会長）
田良島 哲（東京国立博物館学芸研究部調査研究課長）

（分科会担当順）

郵政博物館 研究紀要 第9号

印刷 平成30年3月22日

発行 平成30年3月23日

編集 郵政歴史文化研究会

発行 公益財団法人 通信文化協会 博物館部（郵政博物館資料センター）

〒272-0141

千葉県市川市香取二丁目1番地16号